



ケアマネジャーのお仕事サポート

テーマ

軽度認知障害(MCI)の症状を多職種で捉えよう!!

ケアマネ通信7月号からの「つづき」になります。

軽度認知障害(MCI)とは

厚生労働省が運営する「e-ヘルスネット」では、次の定義が記載されています

- 年齢や教育レベルの影響のみでは説明できない記憶障害が存在する
- 本人またはご家族による記憶喪失の訴えがある
- 全般的な認知機能は正常範囲である
- 日常生活動作は自立している
- 認知症ではない

適切なケアマネジメント手法
基本ケア

認知機能低下及び
認知症に関する項目

1、5、6、24、29、30、36、
40、41、42、43、など



適切なケアマネジメント手法
疾患別ケア
認知症がある方のケア



軽度認知障害(MCI)とは、物忘れがみられるものの、記憶力の低下以外で認知機能の障害は見られず、日常生活への影響はあまりない状態です。

定義からは現場に導きにくいので、軽度認知障害の症状の具体例を一緒に見ていきましょう。

✓ チェック

1日のうちに**同じ話を何度もする**。会話をしている中で、同じ話をすることが多くなった。少し前に聞いたことを忘れて同じ質問を繰り返したりする。
先ほど食べたものや**友人の名前、銀行口座の暗証番号など**、これまでは忘れる可能性が**低かったものを忘れて**いる。

✓ チェック

記憶力の低下によって**忘れ物や探し物**が多くなった。また、過去の出来事や日々の出来事を思い出すのが難しくなる。
アポイントメントや予定を忘れてたりする。
お金の計算やスケジュール管理ができなくなった。

✓ チェック

これまでは頻繁に**外出や、近所の人との交流**が行われていたのに、その数が減った。そして段々と無気力になった。また、外出するときに**服装や髪型を気にしない**。このような行動の変化が出る。

好きだった趣味活動をしなくなった。ドラマや読書を楽しめなくなった。

✓ チェック

今までできていた家事で手間取ってしまう。**料理で味付けを忘れてしまう**。家事全般において段取りが悪くなり、スムーズにこなせなくなった。

仕事や車の運転などの様子が変わった。頭がぼんやりして**すっきりしない**。**疲れやすく元気が出ない**。**やる気がわからない**。**の言葉が出てくる**。

いかがですか？

あなたの担当利用者様の居宅サービス計画の5表・モニタリングシートを読み直してください。



訪問介護員、通所介護職員、**配食サービスの担当者**などからのモニタリング報告で**「最近、もの忘れが気になる」「同じことを繰り返し話す」「味付けがおかしい」「探し物が多くなった」**など記載がないでしょうか。

あった場合、「年だから」「加齢に伴うもの忘れ」とは考えないで速やかに地域包括支援センターに相談して専門医への受診につなげるようにしましょう。

そしてアルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制のため「レカネマブ」を投与できる。これにつなげていきましょう。

これは、ケアマネジャーしかできないことなのです。



執筆者

木村隆次

きむらりゅうじ

薬剤師

介護支援専門員

介護支援専門員指導者一期生

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長（初代）として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、青森県介護支援専門員協会会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。